

大阪音楽大学大学院 音楽研究科 [2年制・修士課程]

作曲専攻 声楽専攻 器楽専攻

一人ひとりの夢を実現するために作曲・声楽・器楽の高次なスキルを養成

音楽のスキル向上に対しては、研究と発表の積み重ねが大きな糧となります。大阪音楽大学大学院では現在のスキルを高めるのはもちろん、院生のポテンシャルを最大限に引き出す場と機会をふんだんに用意。音楽家に求められる教養も身に付けます。

1年次修了時には研究成果確認の修士リサイタルを行い、大学院定期演奏会では、活発な各専攻の交流と個々の高いスキルで、魅力溢れるステージを創ります。

少数精鋭の専門教育で、 高度な音楽性を追求

大阪音楽大学大学院では、大学で身に付けた以上に高度な音楽性と広い視野を習得すべく、研究と発表の積み重ねを実践。能力を大きく伸ばさせたくて社会に巣立ちます。



「芸術文化の諸相」 安東伸元氏の「人格形成に於ける古典芸術文化の役割」

多彩な分野から一流の 専門家を招く「芸術文化の諸相」

専門知識や技術はもちろん、広い視野と豊かな教養を備える人物こそ、理想の音楽家です。一流の見識に触れ、音楽や芸術を多様な面から体感するために、多彩な分野から講師を招き、「芸術文化の諸相」を開講。作曲家、作家、狂言方音楽師等、各分野の一流を招聘しています。



「芸術文化の諸相」 佐治晴夫氏の「科学と芸術の間にあるもの」

■作曲専攻 作曲研究室

日本と諸外国における文化の同・異質性を探求しながら、日本の現代音楽作品を創造。教育・研究活動を通じて、音楽文化によって国際社会に広く貢献できる能力を持つ人材を育成します。



作曲研究 作曲法特殊研究 作品研究(西洋/日本) 作曲楽書研究 管弦楽作品研究
コンピューター音楽研究 現代音楽演習 芸術文化の諸相 修士リサイタル

■作曲専攻 音楽学研究室

音楽に関する学術研究を追求。音楽学の研究者、音楽の理解者として社会に役立つ人材を育成します。従来の西洋音楽、日本音楽、民族音楽などの分野ごとの研究を越えた、「開かれた研究室」を目指しています。



音楽学研究 音楽学特殊研究 音楽研究実習 文献研究 音楽学合同研究演習
芸術文化の諸相 現代音楽演習 修士リサイタル

■声楽専攻 オペラ研究室

歌唱における基礎を重要視した上で、演唱力の密度をさらに高めます。声質およびキャラクターに適した演目を模索し、歌唱と演技の両面からの研修で、オペラ歌手の育成を目標としています。



声楽研究 リブレット研究 オペラ研究 修士演奏資料研究 現代音楽演習 歌劇曲研究
舞台言語表現法 演技演出研究 演技研究 芸術文化の諸相 修士リサイタル

■声楽専攻 歌曲研究室

ドイツ歌曲から日本歌曲、宗教声楽曲に至るまで、歌曲芸術の研究について高度かつ広い視野に立って展開とすることを目標としています。国内外の著名な演奏家・教授を招聘しての授業も行っています。



声楽研究 歌曲研究(日本/ドイツ/宗教曲・重唱) 修士演奏資料研究 オペラ研究 ドイツ語発音法
声楽特別研究 芸術文化の諸相 現代音楽演習 修士リサイタル

■器楽専攻 ピアノ研究室

ピアノ独奏をはじめ協奏曲、ピアノ演奏演習、ピアノ曲分析、ピアノ指導法など、ピアノについての幅広い視野と奥深い学識・見識を身に付けます。また、室内楽研究や伴奏法にも力を入れ、総合的にピアノ音楽を研究します。



ピアノ研究 ピアノ特別研究 ピアノアンサンブル研究 歌曲伴奏法 ピアノ指導法 芸術文化の諸相
現代音楽演習 室内楽研究(管楽器/弦楽器) ピアノ曲分析 修士演奏資料研究
外国語研究 修士リサイタル

■器楽専攻 管弦打研究室

ソリストや室内楽奏者、オーケストラ奏者、教育者といった多様な研究課題に対して、より高度な技術と豊かな表現能力を習得可能。大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウスでのインターン制度も設けています。



管楽器研究 弦楽器研究 打楽器研究 室内楽研究 吹奏楽 修士演奏資料研究 芸術文化の諸相
特別研究 オーケストラ 管楽曲分析 弦楽曲分析 打楽曲分析 現代音楽演習 修士リサイタル

[取得資格] ■中学校教諭専修免許状(音楽) ■高等学校教諭専修免許状(音楽)

大学院修了者は中学校教諭専修免許状(音楽)、高等学校教諭専修免許状(音楽)を取得することができます。ただし、出身大学において中学校教諭一種免許状(音楽)、高等学校教諭一種免許状(音楽)を取得した者に限ります。

Student's voice



尊敬する先生方のもとで、存分に研鑽を積める幸せ。

以前は「ユーフォニアムから音楽を」見ていたのが、大学院に来てからは「音楽からユーフォニアムを」見るようになりました。視点が180度変わった、と言っても過言ではありません。とりわけ「管弦打特別研究」では音楽観が大きく変わり、単に演奏家としてではなく、一人の人間として音楽と向き合うようになりました。先生方からは、音楽はもちろんですが、何より「人としてのあるべき姿」を学ばせていただいています。環境も非常に素晴らしく、大学院専用の練習室が十分に用意されていて、何不自由なく研究に取り組みます。

飯田 裕貴 さん 大学院 音楽研究科/器楽専攻/管弦打研究室/1年/明誠学院高等学校 出身